

今さら聞けない資機材の使い方

〔第3回〕スクープストレッチャー

千種 将志

(留萌地区消防組合
消防署)

みなさんはじめまして、北海道留萌消防組合消防署の千種将志と申します。

今さら聞けない資機材の使い方、3回目は『スクープストレッチャー』です。

はじめに

救急搬送時、私の所属では搬送資機材の第一選択としてスクープストレッチャーを活用しています。みなさまの所属でも活用することが多いのではないのでしょうか？

スクープストレッチャーは、2つに割り傷病者をすくい収容できるのが一番の特徴です。脊髄損傷を疑うなどの安静に搬送したい傷病者や、大腿骨頸部骨折・転子部骨折等のような体動による強い痛みを訴える傷病者に対し、最小限の動きで収容・搬送することが可能です。

そのほか、内因性の疾患やC P Aの傷病者の場合でも、仰臥位という安定した体位で安全に搬送することができることから幅広く活用できる搬送資機材です。

今回はスクープストレッチャーの活用方法について現場での活動を交えて紹介していきたいと思います。

今回使用するストレッチャーは『スクープエクセル モデル65E X L』です(写真1)。

仕様

- ・長さ 165cm～202cm
- ・幅 44cm
- ・重量 8.2kg
- ・最大荷重 150kg



写真1 スクープエクセル モデル65E X L

① 救急車積載方法

私の所属ではスクープストレッチャーはメインストレッチャー上に置き、毛布・枕とともに積載しています(写真2)。これにより、機関員は現場到着後、スムーズに傷病者のもとへ向かうことができます。

※通報内容で呼吸器・循環器疾患で座位搬送を疑う場合や、狭隘でスクープストレッチャーでの搬送が困難な場所と想定できる場合は、出動途上に収納し、他の搬送資機材の準備をします。



写真2 スクープストレッチャーはメインストレッチャー上に置き、毛布・枕とともに積載

② スクープストレッチャー搬送

現場に到着し、スクープストレッチャーを搬送する際は、傷病者に向かうまでの経路の幅、段差、障害となるものの位置を確認していくことが大切です。スクープストレッチャーは最短縮使用時でも165cmの長さがありますので、経路の幅については特に注意が必要となります。スクープストレッチャーを縦に持ち傷病者のもとへ向かってしまうと、傷病者収容後に通路の幅が狭くて通ることができないということが起きてしまう可能性がありますので、スクープストレッチャーを水平に保ち収容後のイメージを浮かべながら向かいましょう(写真3)。

傷病者が大柄で伸長して活用する可能性もあるので、どの程度まで伸長することができるのかも把握しておかなければなりません。



写真3 傷病者を乗せて外に出られるか試しながら向かう

③ 患者収容

傷病者接触後、搬送の準備をするにあたり、まず患者の体格に合わせてスクープストレッチャーの長さを適切な長さに調節し、状況に合わせた収容方法を選択します（写真4）。



写真4 最初に長さを合わせる

(1) 2つに割り収容

この収容方法は患者の体動を最小限にとどめ収容することができます。

スクープストレッチャーの長さを調節後、頭部と足部にあるツインロック部を解除し、傷病者の左右に設置します（写真5）。収容時には、傷病者の背中を挟まないように注意し、頭部側からツインロックを結合します。結合後は、ツインロックが確実に結合されているか、1度左右に広げてロックの確認を行いましょう（写真6）。



写真5 二つに割って傷病者の両脇に置く

(2) 用手による収容

用手による収容の際には、スクープストレッチャー上に毛布を敷いてから収容しましょう、傷病者によっては背中が固くて痛いなどと訴える傷病者もいますので、毛布により軽減します。傷病者の左右にスペースがない場合や人数が多い場合は、ログリフトで収容することもできます（写真7）。



写真6 ツインロックが確実に結合されているか確認する



写真7 傷病者の左右にスペースがない場合はログリフトで収容する

(3) シーツやタオルケット（敷物）による収容

ベッド上にいる傷病者を搬送することも多いと思います。そのような時にはベッドのシーツやタオルケットを活用すると簡単にストレッチャーに収容することができます。

まず、ベッド上に敷いているシーツ・タオルケットをとり、敷物ごと傷病者を左右どちらかに移動し空いたスペースにスクープストレッチャーを置きます（写真8）。



写真8 シーツを利用して移動する。まずシーツで傷病者をくるむ